



# だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば  
代表 桑波田 和子  
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1  
(一財)千葉県環境財団業務部  
環境活動支援課気付  
電話 043-246-2180  
FAX 043-246-6969

## 新しい年を迎えて

千葉県環境生活部循環型社会推進課長 入江 信明

平成30年の新春を迎え、環境パートナーシップちばの皆様におかれましては、ますます御清祥のことと心からお喜び申し上げます。

皆様には、日頃、地域の環境保全をはじめ、環境学習、地球温暖化対策、循環型社会づくりなど、幅広い活動を実践されるとともに、県の環境講座の実施等にも御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

また、エコメッセにつきましても、桑波田代表に実行委員長として御尽力をいただいております。昨年は立ち上げから22年目を迎え、初の試みとなる実行委員会企画として「始めよう食エコ」をともに作り上げました。それにより、フードドライブの実施や食エコレシピの募集、さらには食品ロスの削減に取り組む団体とのパネルディスカッションと県3R推進シンポジウムの連携等を実現することができました。エコメッセは県にとっても、市民・企業・大学など様々な主体と協働で取り組むことができる大切なイベントであり、共に発展し

続けていけることを願っています。

さて、今年も、平成20年3月に策定した「千葉県環境基本計画」が最終年度を迎えることから、県では次期環境基本計画の策定準備を進めているところです。新たな環境問題に対応した循環型社会づくりを着実に広げていくためには、多様な主体をつないで、環境活動の推進と充実を目指す、環境パートナーシップちばの皆様の取組が大変重要です。今後もますますの御協力をお願いします。

終わりに、環境パートナーシップちばの一層の御発展と、会員の皆様方の御健勝・御活躍を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



## 思いを形にする年

環境パートナーシップちば 代表 桑波田 和子

あけまして おめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

平成30年は、世界が平和で心豊かに暮らせる社会の実現を祈りたいと思います。

当会は平成9年6月に設立され、満20周年を昨年迎えました。人の一生から見ると、成人としての責任と実行を期待される大きな節目です。設立当初の会員は、千葉県が主催した、「エコマイナード養成講座（平成5年～19年）の卒業生が多く、「環境シンポジウムちば会議」「エコメッセちば」の開催などに深くかかわってきました。現在では、エコメッセちば、環境学習、市民・企業・行政などとのパートナーシップの推進などの活動を展開しています。

20年経た今、これまで以上に責任を持ち、持続可能な社会の実現に向けて活動していくことを

強く意識していきたいと、2年間かけて、NPO法人の検討を行いました。昨年12月末に法人設立総会を開催し、現在は千葉市からの承認も下り、法務局への手続きに入り、いよいよ「NPO法人環境パートナーシップちば」としての活動がスタートする、記念すべき2018年となります。

2015年9月、国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された行動目標「SDGs」(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)の実現を担う1団体として、より明確な視点で活動していきたいと思っております。

当会のこれまでの活動を基に、2018年は、法人団体としての新しい命を育てていきます。皆さまのご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

## 特定非営利活動法人環境パートナーシップちば設立総会報告

『任意団体環境パートナーシップちばを、特定非営利活動法人環境パートナーシップちばとして設立する』ことを審議する臨時総会が、12月23日（土）午後1時30分から、千葉市中央区きぼーる会議室で開催されました。会員73名のうち、有効出席数54名（実出席31名、委任者23名）のもと、設立趣旨ならびに定款を含めた全ての議案は、全員異議なく承認されました。

臨時総会での承認のもと、12月25日（月）に千葉市に設立申請書を提出しました。縦覧の後、千葉市の審査を経て認証決定を受けた場合、2週間以内に法務局に設立登記手続きを行い「特定非営利活動法人環境パートナーシップちば、略称NPO環パちば」が成立することになります。早ければこの“だより”が皆様のお手元に届くころには新法人が生まれることになります。

新法人は、正会員・一般会員・賛助会員で構成され、設立当初の役員として代表理事桑波田和子氏を含む6名の理事と2名の監事のもとと会員のみなさまとともに、『環境活動の推進と充実をはかるため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標

(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現

をめざすことを目的として、(1)持続可能な社会を目指すための多様な主体とのネットワークの構築事業、(2)持続可能な社会を推進する人材育成事業、(3)環境活動の推進と充実を図るための情報の発信事業を実施』していきます。

任意団体から特定非営利法人(NPO法人)への移行は、法人の登記日をもって任意団体の会員・財産はそのまま承継され、任意団体の会員は新法人の正会員として移行していただくこととなります。

みなさまの今まで以上のご支援と新法人の事業に対する積極的な参加をお願いします。

(文責：川島 謙治)



## 懐かしく楽しかった同窓会

第1回の環境シンポジウム千葉会議終了後の実行委員会の反省会(?)で、このまま解散するのはもったいないという話し合いの中から、<ゆるやかな連帯のもと・・・行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開をはかること>を目的に「環境パートナーシップちば」が誕生したと記憶しています。

当初から「環パ」を支えてきた懐かしい方々が参集した同窓会。みなさま、地道に活動を続けていらっしやるお話や、その後会員となった方々の心強い取り組みのご紹介がありました。

和気あいあいの中にもう20年もたったのだという感慨があり、まだまだこれからもがんばれるという元気をいただきました。「交流」の大切さを実感したひとときでした。ただ、故加藤賢三様はじめここに参加できなくなった方々がいらっしやるのが残念でした。

私は、右も左も分からないまま「環パ」に参加しました。聞いたことのない言葉も出て戸惑うこともあり、周囲の足を引っ張らないようにと思いつつながら活動に参加しました。この中で、パートナーシップのあり方、運営についてなど沢山のことを教わりました。また、さまざまな方々にお目にかかる機会を得たのは、私にとって大きな財産です。そして、同窓会のみなさまと同様に、自分の経験を地元を持ち帰り活動に活かしてきたつもりです。

現在、気力はあっても体力が伴わないこともあったりします。楽しく元気の基になっているボランティアを、少しでも長く続けられるよう健康に留意して行こうと思っています。

法人格を取得した「環パ」が千葉県の環境活動の核となり、ますますの活動の発展を願っています。

(文責：大西 優子)





## 環境パートナーシップちば 20周年記念講演会

## 「パートナーシップで元気なちばを創ろう！」

## ～SDGs時代に求められる市民活動とパートナーシップ～ 報告

平成29年1月13日（土）に千葉市生涯学習センター小ホールで、星野智子氏（一般社団法人環境パートナーシップ会議（EPC）副代表理事）を講師として、環境パートナーシップちば 20周年記念講演会「パートナーシップで元気なちばを創ろう！」を開催いたしました。

はじめに、環境パートナーシップちばが平成9年に誕生してから現在までのふりかえりと20周年を機にNPO法人化を2年ほどかけて検討してきた経緯が桑波田代表から話されました。

その内容は、「エコマインド養成講座」「環境シンポジウム千葉会議」「エコメッセちば」の活動を通して得るものが大きかったことや、今後もパートナーシップの基に持続可能な開発の目標（SDGs）や教育（ESD）の視点を意識した事業を展開していきたいことなどでした。

そして20年を経て、2018年1月の「SDGs時代に求められる市民活動とパートナーシップ」として元気なちばを創るための講演会も開催することになったとご挨拶がありました。

講演資料については、当会ホームページに掲載（<http://kanpachiba.com/archives/2416>）させていただきましたので、ここでは概要をお伝えいたします。

講師の所属する環境パートナーシップ会議（EPC）は、地域の環境団体や、政策提言を行う環境NGOを支援し、企業や政府とつなぐこと（パートナーシップ）によって、課題を解決に導く新しい力を生み出すことを目的に活動している組織です。

「国連新目標のSDGs（Sustainable Development Goals：エス・ディ・ジーズ）とは？」リオ+20（2012）でSDGsの策定が合意され、ミレニアム開発目標（MDGs）に代わる開発目標として、先進国・途上国すべての国を対象とした行動志向型、かつ野心的な目標です。

SDGs提案の背景には、人間の生存はあくまで健全な地球環境が基盤だが、その環境が限界に直面して、持続可能性の観点を開発目標に組み込んでいく必要から、開発と環境の課題が統合された新目標として、17テーマ、169項目で構成されています。

さまざまな地球規模課題（環境問題、人権・平和問題、貧困・開発問題）を解決するための、1 貧困解消 2 栄養改善と持続可能な農業

3 健康な生活と福祉 4 教育と生涯学習  
5 ジェンダー平等と女性支援 6 水の使用と衛生の保障 7 持続可能な現代的エネルギーへのアクセス 8 雇用とディーセント・ワーク（適切な雇用） 9 インフラ構築、産業化の促進 10 国内及び国家間の不平等 11 都市と人間居住 12 持続可能な生産と消費（SCP） 13 気候変動のための緊急対策 14 海、大洋と海洋資源 15 生物多様性の保全 16 司法へのアクセスとガバナンス 17 地球規模のパートナーシップ  
という目標がSDGsです。



世界の加盟国は、SDGs国内実施に着手することを促進、国レベルで、関係者が参加した包括的で定期的なレビューを行うことを促進しています。

日本政府の取組は、SDGs推進本部を設置して、SDGs実施指針（骨子）を策定しています。

市民の動きは、SDGs市民社会ネットワーク（SDGsジャパン）の取組みとしての紹介、企業の動きは、SDGコンパス・経団連企業行動憲章の改訂・観光業界・広告業界・IT業界 その他の動きの紹介がありました。

SDGsを地域課題を発見・解決するきっかけにして、多様な主体と地域の全員に関わる、役割分担・資源を出し合う、パートナーシップで相乗効果を上げていくなど、暮らしやすい地域づくりのため「元気なちば」= 持続可能な地域 = 「豊かな環境」づくりにという千葉への活動提案もいただきました。

会場の皆さんと一緒に考えたいと、ポストイット（「ブルー」には、私が望む「元気なちば」「ピンク」にはこれからパートナーになってほしい人、組織）に書いてみましようとの講師の呼びかけに皆さんからたくさんのカードをいただき、大変盛り上がりました。

講師からは、このカードを活用してパートナーシップで市民活動をさらに進めるための多くの提案もいただきましたので、今後SDGsの目標に向けて人材育成等の活動に参考にしていきたいと考えています。今後の皆様のご参加よろしくお願いたします。（文責：横山 清美）

## 平成29年度千葉県環境講座報告

### 「リーダー養成スキルアップ講座 ～ひろげよう・つなげよう～」 第1回 現場体験から環境学習プログラムの組み立て方

11月12日(日)、長年環境教育に携わっておられる小川かほる氏を講師として、「リーダー養成スキルアップ講座 第1回」が行われました。

幕張ベイタウンにある打瀬ふれあい緑地(エコパーク)が集合場所だったため、受付を済ませた参加者各々がエコパーク内を散策することから始まりました。暖かい日差しの中、小さいながら自然豊かなエコパークを散策するのは気持ちの良いものでした。

講座開始後、ペアを組んで改めてエコパーク内の良いところを探しながら散策すると、ミカンが植えてある、硬い土の道が良い、池があるなど、様々な視点からのコメントが挙がりました。

その後、ベイタウン内の集会所へ移動し、「幕張ベイタウンにエコパークをつくる会」が作成した「エコパーク生きものにぎわい・つながり図鑑」の作成プロセスについて聴講しました。

午後は、「環境学習プログラムの組み立て方」の講義の後、どんな環境学習をやりたいか(やっているか)を参加者に挙げてもらい、テーマ別の3

グループに分かれてグループワークを行いました。最初は何から始めるべきか戸惑う参加者もみられましたが、メンバーと打ち解けていくととも



に、活発な意見交換が行われるようになりました。実践的なプログラムを作成したグループや、具体的実現に向けて話し合いが進んだグループ、活動内容を環境学習に落とし込むのに難航したグループなど、成果はそれぞれでしたが、各グループとも有意義な話し合いができた様子でした。

参加者は9名と多くはありませんでしたが、そのぶんお互いの顔がよく見え、和気あいあいとした中での中身の濃い講座でした。これを機に、環境学習に携わる方が増えると嬉しく思います。

(文責：荒川 薫)

### 第2回 環境活動などの参加を広める情報発信方法

11月25日(土)、吉田知津子氏(認定NPO法人 ハンズオン! 埼玉 理事)を講師に、「リーダー養成スキルアップ講座 第2回」が千葉市生涯学習センターを会場として行われました。

「広報と広告」の基本のき」は、二位一体となって伝わる原理であることの内容でした。

はじめに、グループ内で折り紙に「マイブーム」「あだ名」を書いて自己紹介を行うことで、「自分を知る」ことから始まりました。

生活を感じる、人間を見せる、広報は一緒に、などということをお互いを感じてもらうために、講師、参加者はエプロンを着けてという講座のお約束でした。

広報・広告の意義や役割については、映像を交えたりしながら、終始分かりやすく伝えてくださり、その中で、伝わる原理や、くらし言葉を使う、関係ない新米を入れる(上から目線はやめる)など、自然に情報発信ができる方法などを学びました。「いま、あなたの団体にとって広報とは?」「もし、あなたが団体の広報責任者と言われたら?」などのテーマや、世の中にある広告の方法(チラシ、ポスターなど)を思いつく限りピックアップする「広告広報100本ノック」など、個人やグ

ループで考えるワークもあり、「講座」「会議」なども広報のひとつなど、広告・広報の可能性について講義していただきました。

午後は、「ソモソモ somo somo から広告広報の役割」について講義していただき、5+1つのDON! 「1.どんな人から」「2.どんな人へ」「3.どんな点を」「4.どんな時に」「5.どんな手段で」「6.どんな人と」を考えることを学びました。

最後に、チラシのレイアウト実習として、各自で広報したい内容のチラシレイアウト案を制限時間内で描いた後、実際にチラシを作ってみました。その後、一人ずつプレゼンテーションを行い、講師によりそれぞれ講評していただきました。



(文責：横山 清美)



## 平成29年度千葉県環境講座報告

### 「化学物質ってなあに？ ～正しく知って かしこく暮らそう～」

私たちの暮らしの中にある「化学物質」を正しく知って付き合い方を考える、をテーマに元千葉県環境センター職員小倉久子氏から、12月2日（土）浦安市市民プラザWAVE101中ホールでお話をお聞きしました。

私たちの身の回りのものはすべて「化学物質」できていると言える。「化学物質」の捉えかたは一般の人と専門家では異なり、また範囲が広い。一般の人が「化学物質」を正しく理解する方法としては、人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が、どこから、どれだけ排出されているかを把握できる「PRTR：化学物質排出・移動量届け出制度」があり、ネット閲覧ができる。環境省 - PRTR インフォメーション広場 - 資料集

「PRTR データを読み解くための市民ガイドブック 化学物質による環境リスクを減らすために」で情報入手ができ、第一種指定化学物質については個々の毒性などの情報を、「化学物質ファクトシート」等を通じて自分で調べることができる。

最後に、あらかじめ参加者からいただいた、日

常生活で疑問に感じていることに対する質問や、会場からの質問に対し回答をいただき、さらに理解を深めました。主な質問と回答は以下のとおりです。

Q：ポリ袋やプラスチックの製造制限が必要と思うが？

A：プラスチックは年間3億トンの製造されているが、生活に欠かせないもので製造制限は難しい、市民ができることは3Rを含め、自分なりの基準で考え選択すること。

Q：生産者サイドの必要な取り組みは？

A：持続可能な発展を目指すSDGsのゴール⑨（産業と技術革新の社会基盤を作ろう）、ゴール⑫（つくる責任、つかう責任）に取り組む必要がある。（文責：川島 謙治）



## 平成29年度千葉県環境講座報告

### 「冬鳥に会いに行こう！」参加報告

東庄町 伊藤 直子

1月7日（日）、手賀沼で行われた体験講座「冬鳥に会いに行こう！」に参加しました。

午前中の冬鳥の観察は、参加者30名が6班に分かれ、我孫子野鳥を守る会の会員の方のガイドで手賀沼の遊歩道を歩きました。水面にはカイツブリ、ユリカモメ、カワウ、オオバン、ヨシ原に浮かぶカルガモ、樹上のメジロ、田畑を歩くムクドリ等、多様な鳥たちを観察。一時レッドリスト入りしたという珍しいオオタカもみられて、私たちの班がみつけた鳥は31種、バードウォッチングを満喫しました。

午後は、鳥の博物館の見学と、我孫子野鳥を守る会会長の野間吉幸氏による講義「手賀沼の環境と水鳥の変遷」でした。

講義は、我孫子野鳥を守る会が1977年から毎月1回、41年間続けている手賀沼の水鳥の定点観察に基づくものでしたが、鳥の生息環境の保護に関する貴重なデータであるとともに大きな課題を投げかけていると感じました。講義内容を以下にまとめます。手賀沼は、生活排水の流入による水質悪化で、1974年から日本一汚い沼となり、2000年に北千葉導水路が稼働して水質が改善。水鳥の数は、観察開始以来、減少を続け、2013

年になって増加に転じた。この間の水鳥の変遷をみると、水が汚れて餌となる貝類や水草が消失するとキンクロハジロがいなくなり、2000年以降、水質が改善されると、水の富栄養化で増える動物性プランクトンを食べて



いたハシビロガモがいなくなるといった具合に数を減らしていく。一方、沼で休息し、夜、田んぼで採食するマガモ、カルガモ、コガモは、秋耕（二番穂を土にすき込む）で餌がなくなり、遊歩道の整備により安全な休息場が減ったことで減少、2013年以降、秋耕の割合が減り、沼の植生帯が成長して休息場ができると増加し始める。

多様な鳥が人びとを楽しませてくれる手賀沼ですが、鳥を守るためには広く自然環境全体の保全と、その指標を与えてくれる鳥の観察記録が大事であると実感しました。

## いちほら市民大学環境コース

いちほら市民大学は2年制講座として、「まちで自分の力を発揮してみたい」、「仲間づくりをしたい」という市民の要望に応えるために開講されています。2年目の専門講座『環境コース』で、受講生がこれから市民活動で活動していくための行動計画をつくるワークショップを、環境パートナーシップちばの桑波田、横山、小倉、川島の4人が担当しました。講座は29年11月30日、12月14日の両日、市原市のサンブラザ市原研修室で開催され、20名の受講生が参加されました。

前年までは里山・ゴミ削減・温暖化防止など受講生が関心あるテーマ毎にグループに分かれ行動計画を作っていました。今年度は地区ごとのグループに分かれ、地域の環境課題をテーマに行動計画を作成していただきました。

1日目は、各グループ内で、まず各自が関心のあるテーマを発表した後、日頃から思っている地域課題を発表した後テーマを絞り、『自分ごととして』どんな活動をしていくかアイデアを出し合い、2日目に具体的な行動計画をまとめていただきました。最後に各グループから「①養老川で遊

び、学び、センスオブワンダーを育む」、「②鎌倉街道のグリーン活動」、「③国分寺地区の公園・広場のクリーンアップ」、「④高齢者が住み良い街づくり、歩きやすい清潔な道路を作る」をテーマに各々具体的な行動計画の発表がありました。

受講生からは、「話し合うことで今まで興味・関心があったことが自分の中でまとめられた」、「同じ地域の仲間と身近な課題を共有でき早速、次の集合時間を決めたのがよかった」との感想をいただきました。

講座を担当し、他の人の話を聞く⇒全員で決める⇒行動する人になるというワークショップでの体をいかし、グループで地域の環境保全活動に結びつけていただきたいと思います。

(文責：川島 謙治)



## 世界湖沼会議（霞ヶ浦）に行こう！

第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)が、今年の10月15日～19日に霞ヶ浦(つくば市 他)で開催されます。

世界湖沼会議は1984年に第1回が琵琶湖で開催され、世界各地で開催されている国際会議です。霞ヶ浦では1995年に第6回会議が開催され、今回2018年は2回目になります。

今回のテーマは、「人と湖沼の共生—持続可能な生態系サービスをめざして—」です。千葉県印旛沼や手賀沼で模索していることがそのまま開催テーマとなっているので、会議に参加して世界のいろいろな湖沼の人たちと交流することで、得られることが多いと思われます。

世界湖沼会議は、研究者や行政関係者だけの専門的な会議ではなく、市民も参加するというのが大きな特徴になっています。開催地茨城県では、世界湖沼会議に市民の立場から積極的に協力・参加するために、「世界湖沼会議市民の会'18(ニワン・エイト)」という会もできました。

国際会議への参加はなかなかハードルが高いのですが、すぐお隣の茨城県での開催なので、よい機会です(日本国内での国際会議なので、英語ができなくても、なんとかなります。)。発表しなくても、他湖沼の実情を知ったり、海外も含めてい

ろいろな市民団体などと交流できますので、ぜひご参加ください。

2017年11月1日には、つくば国際会議場でプレ会議が開催され、私も参加してきました。元マラソン選手の有森裕子さんの基調講演「スポーツを通して感じる霞ヶ浦の魅力」の他、霞ヶ浦(2件)、三方五湖、琵琶湖の事例発表がありました。印旛沼流域圏交流会のブログ「世界湖沼会議のプレ会議に出席しました(その1～その6)」(2017年11月8日～)に詳しく書きましたので、よかったらご覧ください。

<https://ameblo.jp/inbameeting/entry-12326516693.html>

(文責：小倉 久子)



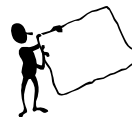


県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 42 —

おききました！ この人・この団体

## 手賀沼の野鳥を見守って46年

我孫子野鳥を守る会会長 間野 吉幸



我孫子野鳥を守る会は1972年に設立された千葉県で最初の野鳥愛好団体です。今年の3月で丸46年を迎え、家族会員を含めると230名余りの会員で活動しています。

私たちのいる我孫子市は水辺、農地、台地の環境があり多くの野鳥が飛来する地域であります。特に日本における野鳥研究のメッカ「(公財)山階鳥類研究所」、わが国唯一の鳥類専門の「我孫子市鳥の博物館」があり、手賀沼には多くの鳥たちが姿を見せると言う、願ってもない環境があります。

私たちのミッションは、次のとおりです。

『我孫子野鳥を守る会は、自然のなかの野鳥を楽しみ、野鳥を愛するところを育てるとともに、野鳥を通して自然保護に努め、人と鳥が共存する環境づくりを行い、併せて会員の親睦を図ることを目的とし、特定の政治団体や宗教団体には関与いたしません。』

この当会のミッションを達成するために、次の事業を展開しています。

会の活動の中心は探鳥会にあります。毎月第2日曜日の定例手賀沼探鳥会のほか、環境が異なる遠隔の探鳥地を、日帰り又は1泊で訪れる遠出探鳥会を月1回程度開催しております。最近では台湾など海外の探鳥会も行っています。

地元の野鳥情報の収集及び研究活動に注力しております。

第一は手賀沼周辺（我孫子市・柏市など）の鳥便りの収集です。この活動は1972年から始まり、2017年末までで10万件余りの情報が集まりました。

第二は手賀沼の水鳥の定点個体数調査です。1977年から毎月1回調査し、手賀沼の水鳥の変遷を定量的に観察し、手賀沼とその周辺の環境の変化を、水鳥を通して把握しております。

第三は手賀沼ビオトープの鳥類調査です。手賀沼ビオトープが作られた1999年から現在に至るまで毎月調査し、野鳥を通しビオトープの変化を捉えています。これらの成果を書籍やイベント等を通して発表しております。

私たちは、野鳥を中心とする自然保護に必要な諸活動を展開しています。野鳥に親んでもらえるよう、子どもから老人まで多くの市民の方が参加する探鳥指導、小学校への野鳥啓発活動、ジャパンバードフェスティバルなど色々なイベント等を通しての野鳥啓発活動を行っています。

これらの会の活動記録は、会員の撮った写真などとともに、毎年データベースとして電子ファイル化して活用しております。特に野鳥写真はいろいろな所に活用されて、会の活動の戦力となっています。これらの写真等は、我孫子野鳥を守る会のホームページにも掲載しておりますので、ぜひホームページもご覧ください。

我孫子野鳥を守る会

<http://abikoyacho.org/>

冬の手賀沼は野鳥観察に一番良い季節です。  
是非お越しください。



# 運営委員会報告

## 12月運営委員会

日時 12月13日(水) 18:00~20:50

場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・千葉県環境講座実施  
11/18 11/12 11/25 12/2
- ・法人準備会開催 11/13 12/6
- ・市原市民大学(環境コース) ・地球環境基金応募
- ・こどもエコネットちば 第2稿作成中
- ・関東 EPO パートナーシップミーティング
- ・だより118号 印刷・発送

### 【協議】

- ・だより119号 ・環境講座 1/7
- ・ちば環境再生基金応募
- ・いんばぬま情報広場へ団体情報掲載の件
- ・12月23日臨時総会 ・同窓会
- ・環境パートナーシップちば20周年記念講演会

## 1月運営委員会

日時 1月10日(水) 18:00~20:50

場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・臨時総会及び設立総会 12/23
- ・千葉県環境講座実施 1/7
- ・こどもエコネットちば 印刷 及び送付
- ・法人準備会開催 12/19 12/21
- ・ちば環境再生基金応募
- ・いんばぬま情報広場団体情報提出

### 【協議】

- ・環境パートナーシップちば20周年記念講演会 1/13
- ・SDGs 講演会応募の件
- ・法人後の運営方法 ・会計の締め他
- ・平成30年度千葉県環境講座 あれば応募
- ・シードバンク研修、3月頃を予定

## お知らせ

### 第9回東京湾海洋環境シンポジウム

「東京湾を学ぶ：生態系の現状2017」

日時：2018年2月12日(月・休日) 13:00~17:00

会場：東邦大学習志野キャンパス  
理学部5号館1階5104教室

共催：東京湾海洋環境研究会、東邦大学理学部  
東京湾生態系研究センター

後援：東京大学海洋アライアンス、東京湾再生官  
民連携フォーラム、東京湾をよくするための  
行動する会

事前申し込み：不要 参加費：無料

<https://www.oa.u-tokyo.ac.jp/news/2018/01/005045.html>

### こどもエコクラブ全国フェスティバル2018 ～輝け！全国のアースレンジャー！～

日時：2018年3月25日(日) 10:00~15:30

会場：日本科学未来館(東京都江東区青海2-3-6)

主催：公益財団法人日本環境協会  
(こどもエコクラブ全国事務局)

内容：元気にエコ活動をしている都道府県代表の子どもたちが一堂に会して、日頃の活動を手作り壁新聞をもとに発表・交流し合います。

詳細は、<http://www.j-ecoclub.jp/> を参照

事前申し込み：要 見学：無料

問い合わせ：こどもエコクラブ全国事務局

TEL：03-5643-6251 E-mail：j-ecoclub@eic.or.jp

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団

業務部環境活動支援課 気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

Eメール：info@kanpachiba.com

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

## <環境パートナーシップちば>

### 入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		